第83号
平成17年10月12日発行
群馬県山岳連盟
〒371-0005 前橋市堀之下町494-2
女屋　等志方
TEL 027-269-4570
FAX 027-269-4583
編集発行人
群馬岳連編集部　岡安茂能
印刷所　朝日印刷工業(株)

山岳ぐんま

理事長就任にあたって

群馬県山岳連盟理事長
佐藤光由

名塚さんの遭難から早いもので七ヶ月が過ぎようとしています。不測の事故の後任という形で理事長に就任するという事は、考えも及びませんでした。

事故当日の10月10日、私は前橋祭で知り合いの神輿担ぎに出かけていました。私への第一報は、当日名塚さんの奥さんと一緒にいた境町山の会の剣持から入りました。アンナプルナベースキャンプから衛星携帯電話による連絡で「名塚さんの死亡を確認した。」という内容でした。お祭り会場から名塚宅へ直行。すでに前橋山岳会の小泉さん、八木原さんが駆けつけていました。翌日に小泉さんの事務所に事故対策本部を設けることにし、何もできないもどかしさを感じながら解散しました。

翌日からは、前橋山岳会を中心にマスコミ対応に追われながらも情報収集をし、遺体が五、五〇〇mにあり、収容する努力をしているという状況がつかめてきました。95年マッキンリーでの山田さん、三枝さん、小松さんの事故から収容までを思い出させる状況でした。あの時の収容隊メンバーであった名塚さんのためにも遺体を収容したいと願いました。一時は遺体放棄まで傾きかけましたが、星野会長の依頼で、中曽根顧問、県知事にネパールへ収容依頼をみずから働きかけていただきました。また、別ルートでの愛知岳連への依頼、そして現地では、奥さんと小泉さんの努力で収容隊が編成され、同隊の隊員とシェルパによって首都カトマンズに収容されました。

八、〇〇〇m14座を目標にしていましたが、事故が心配だから決してあせってはいないと言っていた名塚さんでした。ヒマラヤを現役で登り続ける難しさをあらためて感じました。

名塚理事長体制で副理事長として三年二か月。山岳渓流会岩遊、伊勢崎ハイキングクラブの二団体が岳連に加入しました。その一方で現在休会している会は、沖電気山岳部、倉渕山岳会、片品山岳会、藤岡山岳会、伊勢崎山岳会の五団体になります。市町村合併のため新治山岳会は脱退し、中之嶽山岳会も会費未納のまま脱退しました。若い人が山に登らない、あるいは組織に入りたがらないという状況のなか、人材確保に各山岳会は苦労していると思います。

群馬県山岳連盟の各専門部の技術レベルは高いと思います。そのレベルを維持、さらには発展させ、より高度な登山、そして安全登山の啓蒙になればと思っています。何分にも今だ四十歳前半の若輩者です。皆さんの御協力をお願いして、就任の挨拶といたします。

（〇五、五、二五）

平成十七年度 群馬岳連総会開催される

五月二十一日、平成十七年度群馬県山岳連盟総会が前橋市上毛会館において開催された。

開会に当たって星野光会長が挨拶を行い、「社会情勢が大きく変化している中で、自分の趣味を生かしていかなければならない。海外で事故が頻発しているが、楽なことばかりやっていては、技術は磨けない。いかに事故なく、しかも我々が納得のいくような登山をするか、一層の研鑽・訓練に励んでほしい」と激励した。

女屋等志事務局長から群馬岳連規約にもとづいて、理事および評議員の出席者と委任状によって総会が成立したことが報告された。

議案審議は、規約にしたがって星野会長が議長を担当して進められた。

始めに、平成十六年度事業報告が議案書に沿って、総務部・編集部・遭難対策部・登山指導部・国体部・海外登山部・自然保護部・事業部・クライミング部の順序で、女屋事務局長によって説明された。また、表彰受賞等および後援名義承認について報告された。引き続き平成十六年度の収支決算報告・同基金調書、競技力向上対策事業収支決算書について説明が行われた。これらについて、竹山繁男監事

から適正に処理されていたとの監査の報告があり、事業報告・収支決算報告・基金調書・競技力向上対策事業収支決算書を一括して拍手多数で議案書通りに承認された。

次に、平成十七年度事業計画、また、平成十七年度収支予算および補助金等について女屋事務局長から提案され、一括審議されて、これも議案書通り承認された。

その他の議事として、他県で開催されるクライミング・コンペの参加について、堀越利通クライミング部長から強化補助の要請があり、これについて会計八木原圀明氏、国体部松田龍彦氏から、コンペ参加は有意義であり、是非応援してあげたいとの発言があり、後日理事会で審議することになった。

本年四月の新治山岳会（岡田太平会長）脱会に続き、中之嶽山岳会（飯島常男会長）から脱会届が提出され、これが承認された。

本年六月三日から八月十五日にかけてナンガ・パルバット（八、一二六メートル）の登頂をめざす「群馬県ナンガ・パルバット登山隊２００５」の星野光総隊長と剣持典之隊長から、過日催された壮行会についての謝辞と、登頂に向けての決意が披露され、出席者の盛んな拍手を受けた。

また、これまで岳連副会長として尽力された田中成幸氏から副会長退任の挨拶があった。氏は今後、岳連参与としてご活躍いただくことになった。

総会終了後、恒例の岳連懇親会が催され、親しく和やかな交歓の時が持たれた。

《平成十七年度主要事業計画》

一、遭難防止活動の推進

谷川岳を中心とした地域の遭難防止のためのパトロールの実施、救助活動および救助隊の技術の向上のため訓練を行う。

二、国民体育大会への参加と選手強化

第六〇回国体山岳競技関東ブロック大会（東京都）への参加と、「晴れの国おかやま国体」（岡山県）で好成績を目標とする選手強化を推進する。

三、日山協主催行事等への参加と各会の交流

日山協行事等に参加するとともに、各会との交流を深め、研修会等を通じて技術の向上、岳人としてのモラルの高揚を図る。

四、美化活動等市民運動への参加

尾瀬のゴミ持ち帰り運動および谷川岳等の美化活動等の推進に協力する。

五、岳連会報の発行

『山岳ぐんま』の発行を通じ、会員相互の結びつきと啓発を図る。

六、海外登山の実施

第九次群馬岳連ヒマラヤ登山「ナンガ・パルバット登山」を実施する。

七、第十六回山田昇記念杯登山競争大会の開催

群馬が生んだ登山家、山田昇および三枝照雄両氏の業績を後世まで伝えるため、登山の基本である体力を競い合い、登山の啓蒙、普及、発展の一助とする登山競争大会を開催する。

期日　九月二十五日（日）
会場　武尊山（利根郡川場村）

八、第二十一回群馬県民の日記念事業「第二十八回県民登山大会」の開催

「県民の日」制定記念事業の一環として、一般県民から参加者を募集し、県民登山大会を開催する。

期日　十一月六日（日）
会場　多野郡上野村村内

九、各種研修会及び講習会の開催

指導員会および遭難救助隊が主管して、一般会員を対象に登山技術講習会を開催し、併せて指導員の資質の向上を目的として研修会を開催する。

十、岳連事業収入の確保

岳連の事業・事務を円滑に推進するため、平成十八年度山岳写真カレンダーの制作頒布などの事業を行い、自主財源を確保する。

十一、第七回関東地区スポーツクライミング競技会の推進

関東地区山岳連盟が持ち回りで開催している、関東地区スポーツクライミング競技会を主管する。

期日　十一月二十日（日）
会場　クライミングジム「ウォールストリート」

十二、スキー・山岳博物館資料調査の推進

利根郡水上町に建設が計画されている「スキー・山岳博物館」に展示する山岳資料の調査を推進する。

〈平成十七年三月、西黒尾根における雪上救助訓練〉

平成十七年度　群馬岳連救助隊編成

遭難対策部長　松永幸雄

平成十七年度の岳連救助隊は左記の編成となりました。

顧問　西山年秋
隊長　松永幸雄
副隊長　小暮文彦、町田幸男
隊員　梁瀬佐市、清水福治、桜澤斉（沼田）、堀越利通（登高会）、角田守（前橋）、清水裕千（むすび）、剣持典之（境町）、阿久津幸弘、金子茂敏、武井幸一、長山栄二（大田）、中村和貞、飯塚敏宏、小和田美由紀（群馬ミヤマ）、沢田和久、堤宏康、岡田陽一（山岳渓流会岩遊）。

新たに沼田の桜澤と岩遊の岡田、二人の隊員が入り、平成十七年度の救助隊は二十人の体制となりました。今後の訓練で様々な遭難に対応できる、信頼される隊をめざします。

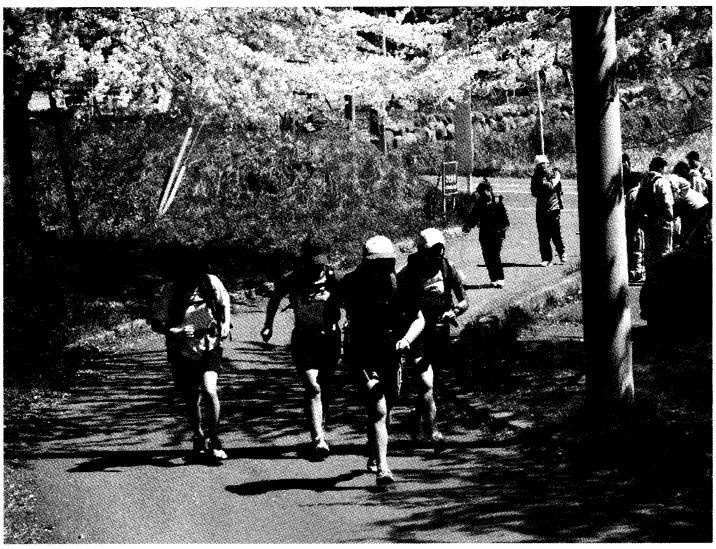
平成十七年度 県民体育大会第二部 山岳競技会 国体県予選会報告

群馬岳連国体部　松田龍彦

期日　平成17年4月23日～24日
会場〈縦走競技〉
榛名、水沢山特設会場
〈クライミング競技〉
前橋ウォールストリート
参加者　成年男子　8名
少年男子　18名
少年女子　7名　計33名
大会役員　32名
競技役員　12名

山岳競技県予選会は四月二十三日、二十四日の二日間にわたり実施。一日目は満開の桜が咲く中、星野会長挨拶のあと縦走競技が開催された。

少年参加者は五校二十五名と少ないが、熱心にクラブを指導している顧問の先生に引率され精鋭が集合。九時三十分、計量開始。重量成年男子15kg、少年男子10kg、少年女子8kg、全員が計量パス。十時三十分、男子（成年、少年）一斉にスタート、十時四十分、女子（少年）スタート。競技役員もゴール地点で選手を待ち受けていると、予想したとおり、昨年埼玉国体で成年男子縦走競技一位の松本、鏑木両選手が圧倒的な速さで余裕を持って飛び込んできた。少年との重量差5kg、少年一位とタイム差は6分31秒。まだオフシーズンでこのタイムを出すのはさすが。少年男子は渋川高校　青木大輔、原沢翔太で一位・二位、沼田高校　田口修一が三位でゴール。県北の高校が上位を占めた。少年女子は沼田女子高校　星野真理恵、笠原千裕が一位・二位となり、高崎工業　尚　亜美が三位となった。



クライミング競技は前橋ウォールストリート特設会場で二十四日開催。ルート設定はオーナーの柘植さんにセットを依頼。少年男女オブザベーション五分、競技開始十時十分スタート。少年のグレードは10c、特にトラバースから側壁に移動する個所が難しかったようだ。

決勝は一時十分スタートし、ルートグレード11bとかなり難しくなったが、高崎工業　白石裕也・高本憲孝が一位、二位となり三位に館林高校　福田侑人が入った。予選ではトップだったが残念。少年女子は沼田女子高校　西山亜里沙が他選手を引き離し一位となった。

成年男子は予選十二時二十五分から競技開始。ルートグレード12bcホールドが細かでバランスの難しい設定のためかルート中間地点までしか到達できなかった、決勝はグレードを12bに設定、昨年の国体選手富澤太郎が一位となった。

《競技会を終えて》

成年女子が日程都合で参加できなかったのは残念であるが、ブロック大会出場に向け、第二回目の予選会を計画し選手発掘と参加者募集をかけ6月に開催を予定。どこの県でも成年女子は縦走とクライミングのできる選手がいなく苦労している。

群馬岳連 クライミング講習会開催される

登山指導部

五月下旬、群馬岳連登山指導部主管によるクライミング講習会が、机上と実技を二日に分けて開催された。講師には、国際山岳ガイド連盟UIAGMガイドで、ジャパンアルパインガイド組合員であり、また、文部科学省立山登山研修所の講師も担当されている長岡健一氏を招いて指導をいただいた。群馬岳連講師としては、久保田一美、武井幸一両氏（大田山岳会）が担当した。講習の概要は以下の通りである。

◇机上講習会

期日　平成十七年五月二十七日（金）19時～21時

会場　群馬県青少年会館

テーマ「間違っているクライミング技術、岩場でしてはいけないこと」

◇実技講習会

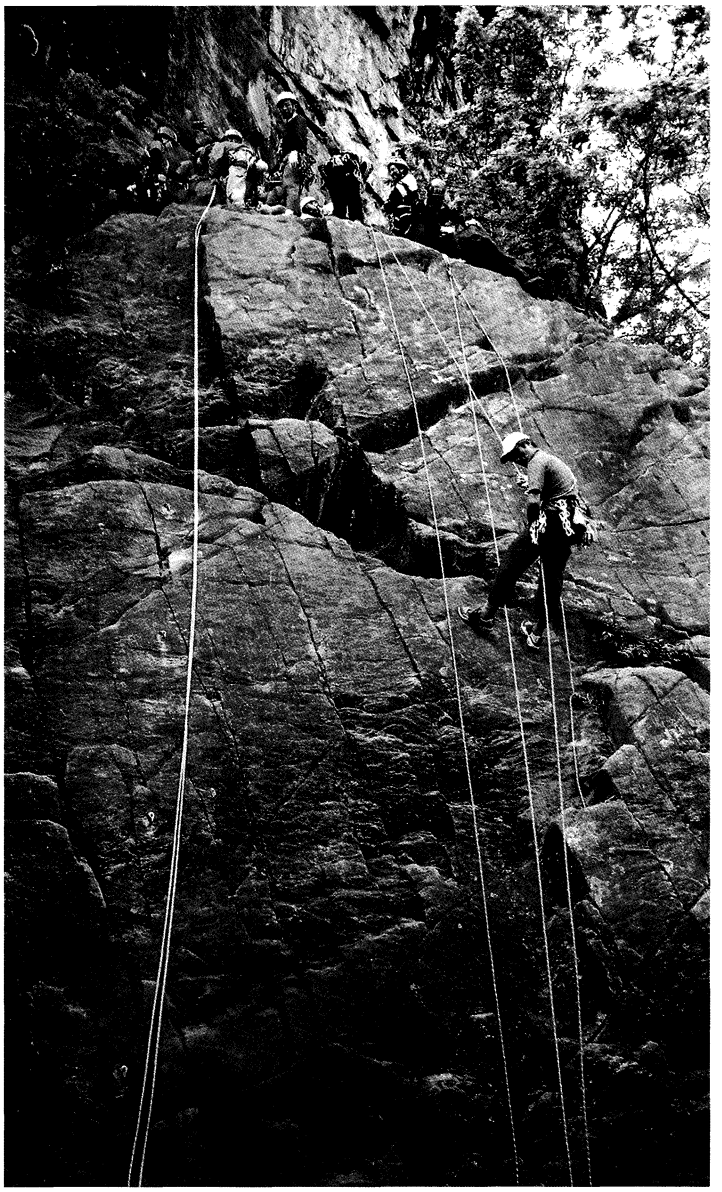
期日　平成十七年五月二十九日（日）集合8時、開会8時30分、閉会15時

会場　榛名山黒岩

《中級》支点を構築する技術（ナチュラルプロテクション）、確保技術、懸垂下降技術。

《初級》ワンランク上のクライミングを目指す各技術の再確認。

机上講習には二十二名が参加、また、実技講習には二十七名が参加し、その内、中級十七名、初級六名、初心者四名の構成であった。



講習会について

国際山岳ガイド　長岡健一

今回講習会に参加された群馬岳連の皆様、大変お疲れ様でした。参加された方々の顔を見ていると真剣に取り組んでいる姿がよく分かりました。

クライミングというものの道具や技術は、年々確実に進歩しています。うかうかしていると私たちガイドの中でさえ、新しい道具を使いこなせない者も出てきてしまいます。それは残念ながらどのような経歴をもってしても補えるものではありません。

そこで私の感じたこととして今後必要と思われることは、群馬岳連独自のスタンダードをマニュアル化し、文章にすることだと思います。無論これは基礎だけでいいと思うのです。

例えば

○ハーネスの付け方の注意点

○ロープの束ね方、ほどき方

○基本的ロープワーク

・エイトノット／エイトノットフォロースルー（八の字結び）

＊ハーネスとの結束

・ダブルフィシャーマンズノット（てぐす結び）

＊ロープの結束

・ダブルオーバーハンドノット（一重しばり）

・ムンターヒッチ（半マスト）

・ムンターミュール（半マスト仮固定）

・クローブヒッチ（とっくり結び）

・マッシャー（巻きつけむすび）

○支点の構築

＊いろいろな場合を想定して

○トップの確保、セコンドの確保

＊この2つの確保は何が違うか

○懸垂下降の手順と注意点

など、まずは群馬岳連としてのスタンダードを考えることが大切だと思うのです。

優秀な企業はその活動に伴う危険を最小限に抑える〝リスクマネジメント〟をしっかりやるそうです。クライミングも同じで、伴う避けては通れない危険因子をいかに少なく抑えるかの努力を怠っていては決して高みを望むことはできません。

素晴らしいクライミングというスポーツ文化をより安全で楽しいものにしていくために、皆さんで努力を続けていきましょう。

第60回国民体育大会
関東ブロック大会山岳競技会報告

群馬岳連国体部　川島　勉

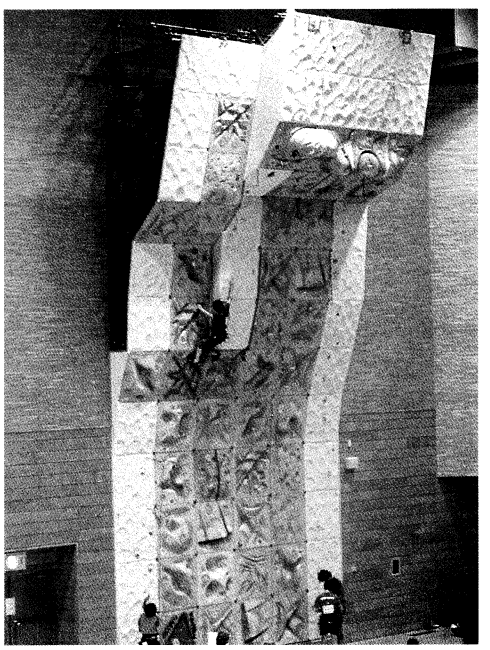
期日　平成十七年七月三十日(土)～三十一日(日)
会場　〈クライミング〉東久留米市スポーツセンター
〈縦走〉八王子裏高尾景信山
参加者数　選手　監督
成年女子　21名　7名
少年男子　24名　8名
少年女子　24名　8名
本県成女　選手　法領田恵、坂井陽子、赤松慈子。監督　松田龍彦
少男　選手　青木大輔、白石裕也、田口修一。監督　長谷川喜久男
少女　選手　星野真理恵、西山亜里沙、綿貫直美。監督　橋爪俊之
成績
総合(クライミング・縦走)順位
◇**成年女子**　＊印は本国体出場
1位＊千葉(ク1位、縦1位)
2位＊神奈川(ク4位、縦2位)
2位　栃木(ク2位、縦4位)
4位　山梨(ク3位、縦5位)
5位　群馬(ク6位、縦3位)
6位　東京(ク5位、縦6位)
―　茨城(ク―、縦―)
―　埼玉(ク―、縦―)

◇**少年男子**
1位＊千葉(ク2位、縦3位)
2位＊埼玉(ク4位、縦2位)
3位　栃木(ク1位、縦8位)
3位　東京(ク8位、縦1位)
5位　神奈川(ク3位、縦7位)
5位　山梨(ク6位、縦4位)
7位　茨城(ク5位、縦6位)
8位　群馬(ク7位、縦5位)
◇**少年女子**
1位＊千葉(ク2位、縦2位)
2位＊埼玉(ク1位、縦4位)
3位　東京(ク6位、縦1位)
4位　茨城(ク3位、縦6位)
5位　群馬(ク7位、縦3位)
6位　栃木(ク4位、縦7位)
7位　山梨(ク8位、縦5位)
8位　神奈川(ク5位、縦―)

七月三十日・三十一日と二日間にわたり、第60回国民体育大会関東ブロック大会が行われた。初日は、東久留米市スポーツセンターにおいてクライミング競技が行われた。会場は、プール、トレーニングジムも併設されている大きな施設で、クライミングボードは一～二階吹き抜けの体育館の側壁を利用して作られている。幅4～5m、高さ11m程度で、今回のルートは高さがないため、やや蛇行するものとなった。午前中成年女子と少年女子の競技が二つのルートを同時進行で行われた。グレードは11cか11dである。本県選手は、成年女子、少年女子ともに健闘するがいま一歩及ばなかった。その後ルートが変更され、壁全体を使った一本のルートが作られ少年男子の競技が始まった。グレードは12aか12bである。少年男子も女子同様、予想以上に苦戦し結果が出せなかった。

二日目、曇り空の中、縦走競技が行われた。湿度が高くムシムシする。縦走ルートは、中央高速道の小仏トンネルの上を通る馬蹄形をしたルートで、距離が10km、高低差500m程である。前半は景信山までひたすら登り、小仏峠を過ぎてからは長い下りが続く。スタートは中央高速のほぼ真下で、少年男子、少年女子、成年女子の順で10分間隔でスタートした。熱中症が心配されていたが、栃木の選手が途中でリタイアする。成年女子は、法領田さんが6位、坂井さんが初出場ながら10位と健闘し、団体順位3位となる。少年女子では、沼田女子高校の星野さんが6位、同校西山さんが7位でゴールし、団体順位3位となった。少年男子は、沼田高校の田口君が5位、渋川高校青木君が11位と頑張りを見せた。

今回の関ブロでは、本国体への出場が果たせなかった。しかし、各選手ともみな自分の限界ぎりぎりの努力をし、頑張ってくれた。大変感動している。反省としては、成年・少年ともクライミングが弱いということを痛感した。クライミングの施設の問題、ジュニアの育成の問題等、これからの課題は多い。成年男子の本国体での活躍を期待する。



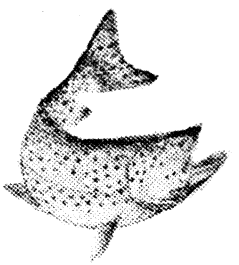
[写真左]
少女クライミング競技
西山亜里沙選手
[写真下]
成女縦走競技
法領田恵選手

味の店　ドライバーレストラン

一本松さかい

利根郡白沢村（国道120号線）　TEL.0278-53-2053

片品川国際マス釣場



星野水産

〒378-0013 沼田市新町230-1

TEL 0278-24-1398

味のりんご

アンナプルナりんご園

沼田市上久屋町1231　TEL・FAX　0278-23-6802

Annapurna

高崎八幡霊園
観音山聖地霊園
墓地取扱店
墓石指定店

石材 高橋石材

高崎市石原町1497 TEL(027)323-8867
工場・高崎市八幡町1245-67 TEL(027)343-0270
携帯 090-8725-8456

電話、弱電工事

プモリ電設

〒379-2223
伊勢崎市小泉町252
☎ 0270-62-2012

(有) 山とスキーの店 石井

DreamBOX
伊勢崎市宮子町1819-1
TEL 0270-21-8025
FAX 0270-21-8026

本店（山の談話室 楼蘭）
伊勢崎市中央町18-8
TEL 0270-25-0272

萬屋建設グループ

歴史、信用、技術をもって、21世紀の人間と環境を考える。

総合建設業

萬屋建設株式会社

会長　星野　光

■本社　群馬県沼田市上原町1756-2　TEL 0278-23-4648(代)　FAX 0278-24-3371
■支店　東京都豊島区東池袋4-2-7　TEL 03-3985-7631　FAX 03-3982-5964

群馬県公安委員会指定（公認）

株式会社　沼田自動車教習所

群馬県沼田市横塚町1088-13　TEL 0278-24-4811　FAX 0278-23-7960

昭和シェル石油特約店

有限会社　丸萬石油

群馬県沼田市上原町1756
TEL 0278-23-0018　0120-41-0018

日本工業規格表示許可工場

建設生コン株式会社

本　社　沼田市上久屋2338-1　TEL 0278-24-3111
大楊工場　利根郡利根村大字大楊187　TEL 0278-56-3682

総合建設業

株式会社　鈴木工業所

群馬県沼田市上久屋1162-5
TEL 0278-22-2846　FAX 0278-23-6233

マンション

萬栄ビル株式会社

東京都豊島区東池袋4-2-7
TEL 03-3971-3433　FAX 03-3982-5964